

| 私所有の下記土地と隣接する板橋区道路管理区域との区域界について、本区域図のとおり確認します。 | | | |
|--|--|--------------------|--------------------|
| 立会場所・土地の地番 | 土地所有者 住所・氏名・印 | 立会年月日 | 合意年月日 |
| 板橋区 板橋二丁目 62-3 | 板橋区板橋2丁目62番1号 (申請者) 板 橋 二 郎 (官公庁、法人等はゴム印による記入可) 実印 | 平成 22 年 4 月 1 日 | 平成 22 年 5 月 1 日 |
| 板橋区 板橋二丁目 62-6 | 板橋区板橋2丁目62番2号 (関係土地所有者) 板 橋 五 郎 (同 上) | 平成 22 年 4 月 1 日 | 平成 一 年 一 月 一 日 |
| 板橋区 板橋二丁目 62-6 | 板橋区板橋2丁目62番2号 (関係土地所有者) 仲 宿 七 郎 (同 上) 認印で可(シヤハク不可) | 平成 一 年 一 月 一 日 | 平成 22 年 5 月 1 日 |

※確認欄

- ・記入については自署とすること。
- ・立会年月日については立会をした日を、合意年月日は本人の合意押印の日を記入のこと。
- ・同一人との立会が数回に及ぶ場合は、最終立会日を立会年月日とすること。
- ・横枠は1つの押印ごとに設けること。
- ・図中の土地地番とすべて一致すること。
- ・図面内に署名押印することが困難な場合は、確認書(第3号様式)によることができる。確認に用いる道路管理区域図の写しは、原図の写しとすること。

※作成上の注意

- ・数値の処理 : 区域点間の辺長・幅員は、算用数字にて記入のこと。
: メートル単位とし、座標値を展開した数値の1/100未満を切り捨てて表示すること。
- ・記載の方法 : 確定辺長には小数点位置にmの文字を記入し、区域線より民有地側に記載すること。
- ・引 照 点 : 容易に動かし難い角のところがった構造物からとること。マンホール等は不可。
: 構造物のどの位置を測量したのか表現し難いときは、詳細図にて表現すること。
- ※すでに確認済みの点については引照点として表示すること。
- ・区 域 点 : 区域点ごとに周辺構造物(L型等)との位置関係を詳細図にて表現すること。なお、詳細寸法は表示不要。
- ・土 地 地 番 : 算用数字を用いて、その存在する位置に記入すること。
- ・方 位 : 北方向に矢印をつけることとし、図面の位置取りは北側を上向きにすること。
- ・下 図 : 記名押印前の本図の写しをもって下図とする。

※作成者欄

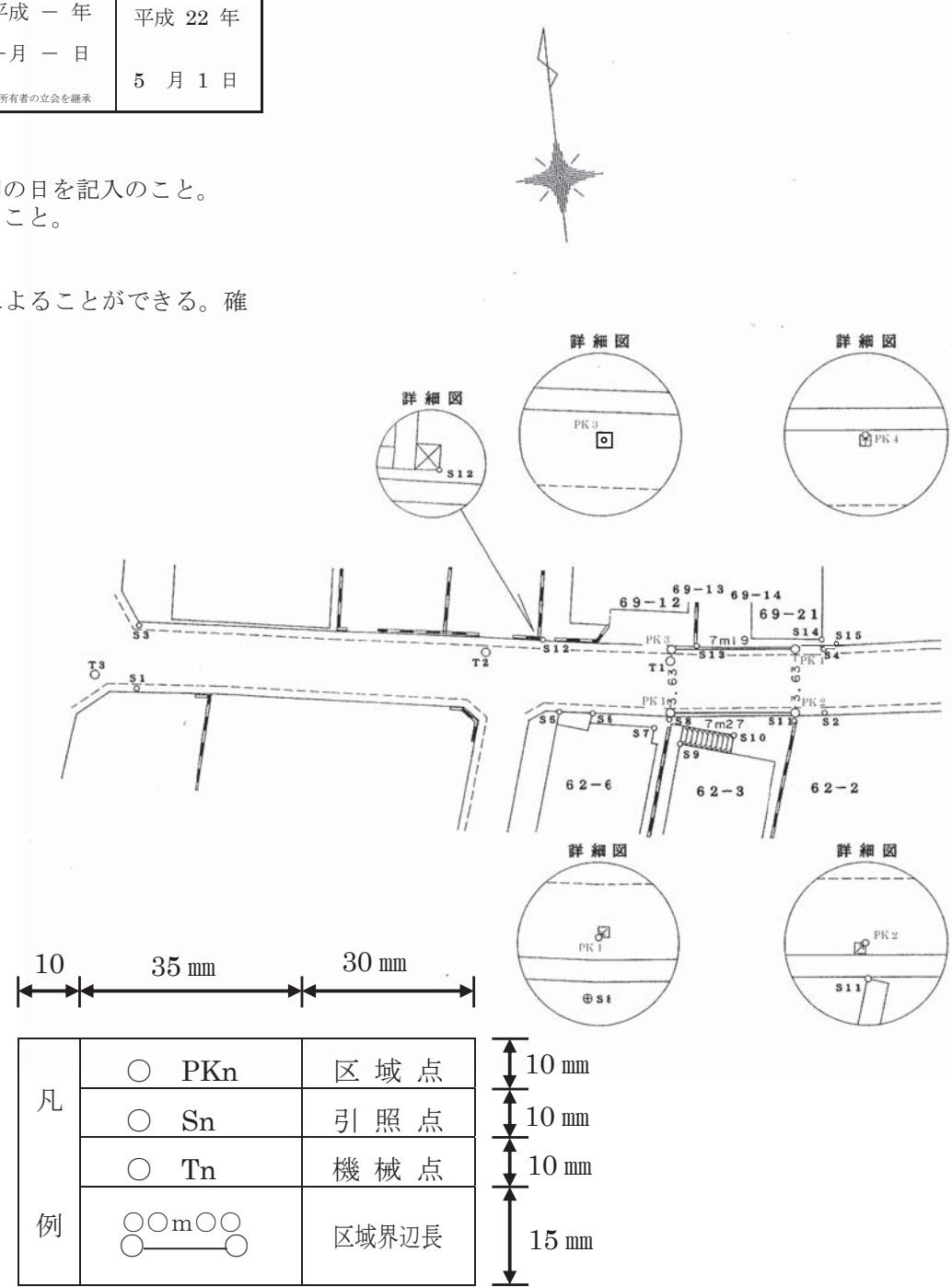
- ・実務取扱者が申請書と同様に記名押印すること。法人の場合は代表者の登録印、調査士の場合は職印で押印する。また、資格を有する者である場合、その資格番号も記入。(申請書と一致)
- ・測量年月日は、立会年月日後、合意年月日以前の日とする。

| | | |
|-------|-------------|---|
| 作成者 | 資格番号 第〇〇〇〇号 | 印 |
| 測量年月日 | 平成 年 月 日 | |

| 道 路 管 理 区 域 図 | | 縮 尺 |
|---------------|--------------------|-----------------|
| 土地所在地番 | 板橋区板橋二丁目62番3 ほか | $\frac{1}{250}$ |

※表題部

- ・実務取扱者が記入すること。
- ・複数の地番が存在するときは代表地番に「ほか」を表示すること。
- ・縮尺は1/250を原則とする。



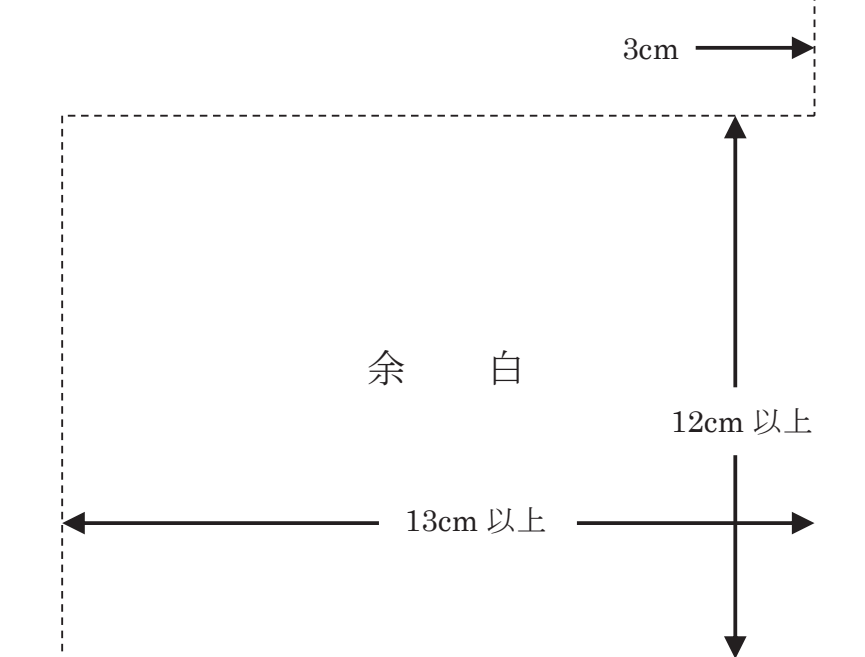
| 点名 | X座標 | Y座標 | 備 考 |
|-----|---------|---------|--|
| PK1 | 218.129 | 277.351 | 区コンクリート杭 <input checked="" type="checkbox"/> |
| PK2 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 民金属標 <input checked="" type="checkbox"/> |
| PK3 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | ミカゲ石 <input type="checkbox"/> |
| S1 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 鋳 |
| S2 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 鋳 |
| S3 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 鋳 |
| S13 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | ブロック塀角 H=0.65 |
| S14 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 建 物 角 |
| S15 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 民コンクリート杭 <input checked="" type="checkbox"/> |
| T1 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 鋳 |
| T2 | 〇〇〇.〇〇〇 | 〇〇〇.〇〇〇 | 鋳 |

※座標欄

- ・区域点、引照点ともに地面から10cm以上の高さをもっている箇所は、その高さをメートル単位で1/100以下を切り捨てて表示すること。
- ・座標値はメートル単位として1/1000まで記入し、小数点以下第四位を四捨五入すること。
- ・石標等は現形を記入すること。

※図面の品質

- ・大きさ : JIS・A列1番若しくは2番の大きさとする。
- ・紙 質 : 長期保存に適した普通紙とする。紙質は中質紙で、厚さ70~80g/m²程度の上質紙。
- ・余 白 : 外周に額縁状に幅3cm以上の余白をとること。
- ・筆記方法 : 活字は2.5mm以上とし、黒一色にて記入すること。
: 長期保存に耐え、改ざん不可能なものとし、活字が剥がれたり、消えてしまうものは不可。
- ・継ぎ目 : 用紙に継ぎ目がある場合は作成者及び図中押印者全員の契印が必要。



道路管理区域図作成方法

1. 表題部については、代表地番を記載すること。なお、申請地番または承諾地番が2以上にわたる場合は、「ほか」を書くこと。
2. 用紙は日本工業規格A列1番若しくは2番とし、長期保存に適した普通紙を使用すること。
3. 縮尺は原則として1/250とする。 (中性紙で厚さ70～80g/m²程度の上質紙)
4. 寸法は算用数字を用いること。
5. 座標値から区域線及び幅員の寸法を計算する場合、m(メートル)単位とし、1/100未満を切り捨てて表示する。また、境界寸法には小数点位置に「m」を記入する。
6. 区域点はPK、引照点はS、機械点(多角点)はTの記号を用い、成果表を各点の座標値(公共または任意)を明記する。
7. 区域点ごとに周辺構造物(L型側溝、塀等)との位置関係を詳細図にて表現すること。なお、詳細寸法は表示不要。
8. 引照点は建物、塀など堅固な構造物の明確な角を用い、後日区域点復元に必要十分な点数とする。
9. 引照点が図面上分かりにくい場合は、詳細図を記載する。
10. 図面の位置取りは北を上向きとし、方位は北方向に矢印等を付ける。
11. 地番は算用数字を用いて、その存在する位置に立会を行った地番のみ記入すること。
12. 土地所有者欄は、立会を行う人数分横枠を作成し、立会場所・土地の地番、住所、氏名、立会年月日、合意年月日を記入する。押印は申請人にとっては実印とし、関係土地所有者にとっては実印以外でも可とする。
13. 作成者欄は測量年月日、測量者の住所・氏名・資格登録番号を記入し押印する。押印は土地家屋調査士の場合は職印を押印する。なお、法人の場合は法人の名称、代表者の氏名を明記し、代表者印(登録印)を押印する。また、実務担当者名、資格登録番号を併せて記入する。

道路管理区域図の現地確認を行います。

板橋区では、現地の境界標識や建物、塀等が正確に記入されているかどうかを確認するため、現地確認を行っています。

現地確認は道路管理区域図に申請者および関係土地所有者の方が記名・押印前に行います。

1. 確認方法

機械点から区域点の引照点までの角度と距離等、区の担当者が指定する箇所を実務取扱者に実測していただきます。実測はトータルステーションなど機器を用いて行いますので、必ず機器を用意してください。

2. 許容範囲

座標値から計算された数値(小数点以下第3位まで)と実測値との誤差±5mmまでを許容範囲としています。ただし、その距離が15mを超える場合は1/3000を許容範囲とします。

(区域)